

11月14日の世界糖尿病デーは、世界中に広がる糖尿病を予防するために1991年にIDF（国際糖尿病連合）とWHO（世界保健機関）が制定しました。

糖尿病の患者数は世界の成人人口のおよそ8.8%となる4億1500万人ほどといわれており、合併症などが原因で一年間に500万人以上が亡くなっています。

日本では「糖尿病・または糖尿病の可能性がある人」は、総人口の15%を超える約2,000万人いるといわれています。糖尿病の悪化を防ぐには早期発見・早期治療が重要ですが、医療機関や健康診断で糖尿病といわれたことのある人の中で、「治療を受けていない」人の割合は、特に男性の40～49歳の働き盛り世代で最も高く、約5割が未受診または治療中断という状況です。

糖尿病には痛みなどの自覚症状が少ないため、疑いがありながらそのまま治療を受けないケースが多くあることが、その要因と考えられています。糖尿病を放っておくと腎臓や目の病気を合併する可能性が高まります。健康診断などで異常があれば、主治医の指導に従って生活習慣や食習慣を見直しましょう。



 **ウオクニ株式会社**  
<http://uokuni.co.jp>